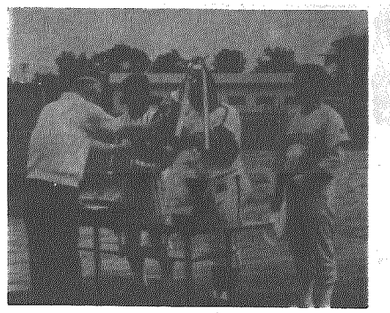
壮年野球大会
マドワーズ初の栄冠


曽我体育協会長から優勝杯を受けるマドワーズの選手たち

第二回壮年野球大会が八月二十一日横越小・横越中グランドで開催され、マドワーズが前年の覇者ロートルズを敗り初優勝をしました。

壮年野球大会は、四十歳以上が資格要件、参加七チームのうち最年長者は五十二歳。

往年の名選手がズラリ、ホームランが二本出るなど、往時を思わせる好打、好守が続出する一方で、足と肩が思うようにいかず珍プレーも多くありました。

こうした中で、好投手を持つマドワーズが六対四でロートルズを敗り初優勝を飾りました。

雨で順延、棄権続出
二本木ク 二度目の優勝

村民野球大会

雨で二週伸びた昭和五十八年度村民野球大会は、八月七日ようやく決勝戦が行われ、二本木クラブが二度目の優勝を飾り、大会の幕を閉じました。

今年の大会は、三十四チームが出場、七月十七日からはじまりましたが、雨で順延、翌週の二十四日も雨、三十一日にようやく試合できるようになりました。しかし、二週続いた雨でどこのチームも選手集めにひと苦労、棄権チームが続出、最終的には九チームが棄権、なかでも早起き野球大会で優勝した横越農協は県農協野球大会の日程と重なり打倒農協をめざしているチームをがっかりさせました。

決勝戦は、ウルフ(沢海)と二本木クの強豪同志の対戦、接戦の末、二対一で二本木クが二年ぶり二度目の優勝をしました。

最優秀選手に大島孝信、優秀選手に藤崎正義（いずれも二本木ク）、敢闘選手に田中実（ウルフ）の三選手が選ばれました。

9月15日に五会場で敬老会

九月十五日は敬老の日、今年も村内五会場でお年寄りの長寿を祝う行事が地区や分館の主催で行われる予定です。

今年の対象者は、昨年より四・五％多い八六〇人余り、村や県からも長寿を祝う記念品が贈られます。

長寿ベストテン
（S58・8・20現在）

清野 ヒノ	93歳	沢海上	
小柳 庄平	93	二本木上	
遠藤 アキ	91	二本木中	
川口 賢龍	91	沢海上	
遠藤 東吉	89	小杉中	
原 マツノ	89	二本木中	
南場 トミ	88	木津上	
神田 孝一	88	横越中	
高橋 甚一	88	横越中	
古沢 トメ	88	木津中	

つりふね草の開花
9月から

昨年本紙十月号で紹介しました「つりふね草」の開花期は、九月上旬から下旬までです。

木津上大島和雄さん前の小阿賀堤防下や、同中の小野塚定雄さん前の堤防下に、つりふね草が群生しています。

<この人を訪ねて>
釣りは〝行〟丈夫なのもそのお蔭
斎藤範平さん（沢海 61才）

川の水が出ようとも、毎朝夜明けと同時に釣りに出掛け、まるでお坊さんの〝行〟みたいと話す斎藤さん

三年前、隠居の身となり暇つぶしにはじめたのが釣り。島原倉四郎さんからヒッカケの仕掛けをつくってもらい、荒堰（小阿賀野川へのはき出し口）で、人の釣れない大きな魚をヒッカケてから釣りが病み付きとなり、以後、冬期間を除いて、夜明けと共に釣りに出掛け、朝飯を食べてまた釣り場にいく。これが斎藤さんの日課となっています。

「釣りはズブの素人のほせてやっているだけ」と楽しそうに話す斎藤さん

たまに、朝寝ていると奥さんが具合でも悪くなったのかと心配するそうです。

「釣り上げるあの反動が何んともいえなくてね……」「去年の七夕の日、床上げの下手に出来た島で、私はそこを厳流島と名付けた。イソメをはじめて買って夜明け前に懐中電灯をつけて出掛けた。すでに先着はいた。四匹ほど釣りあげていたが食べられない魚と思って島に投げて帰ってしまった。私も負けん気を出して、三本の竿を仕掛けた。すると、たちまち喰いつき、一尺位のが二匹同時に釣れた。別の竿にもかかっている。竿をあげる暇がないほどで、ほんとうに忙しかった。

七匹ほど釣ったが、あの日ほどゆかいなことはなかった。何魚か知らなかったが、ボラだったんですね」と楽しそうに話す。

「鮎を一時間に四〇匹ほどあげたことがあった。あの時ほらが吹きたかった。ちょうど海にキス釣りに行った人があり、海の幸と川の幸を交換しようということで、二人で夕食の膳をにぎわしたことがあった」と釣りの話しはつきない。「しかし、家族のものはあまり喜んで食べなくてね」

釣りのコツは、水具合と経験がものをいうそうですが「ズブの素人で、のぼせてやっているだけ」と謙そん。斎藤さんにとって釣りは、〝行〟で、毎日楽しく丈夫でいられるのも、釣りのお蔭だという。斎藤さんは今日も阿賀野川で釣り糸をたらしている。

秋の全国交通安全運動
8月21日～30日

お年寄りの心理や特性を知り、事故防止

今年も「秋の全国交通安全運動」が九月二十一日から三十日まで行われますが〝子供とお年寄りを交通事故から守ろう〟が、重点テーマの一つとなっています。

交通事故による死者数は、昨年、六年ぶりに九、〇〇〇人を超えましたが、今年に入っても、依然として増加の傾向にあります。今年一月から六月までの交通事故死者数は全国で四、四一九人と、昨年に比べ二四五人（五・九％）の増加となっています。

死亡事故の内容を見ると、相変らず子どもとお年寄りが多く、とりわけお年寄りの犠牲者が目立ちます。

クルマ社会の中で弱い立場にあるお年寄りを交通事故の巻き添えにするのは悲しいことです。

そこで、お年寄りの事故防止に焦点を合わせ、交通の面からみたお年寄りの心理と行動特性について考えてみました。

◎お年寄りは、交通ルールをはじめとする〝交通環境〟の変化についていけないことがあります。

◎年をとると、当然、体力をはじめ運動機能や感覚機能が低下します。しかし、本人はまだ若いつもりでいるため、この〝意識と現実〟のギャップが事故を招きやすくしています。

◎基本的な交通ルールを知っているお年寄りでも、身勝手としか思えない行動をとることがあります。

交通量の多い道路をクルマの流れを無視してゆうゆうと歩いて渡るお年寄り、近づいてくるクルマをよけようとしているのに、体はなかなか動かない――ドライバーの皆さん、お年寄り特有の心理や行動特性を理解し、お年寄りを交通事故から守りましょう。

盆市 夏の風物誌 盆踊り

八月十一日、横越前新田の通りに、今年も盆飾り、提灯・はきもの・衣料・金魚・おもちゃなどの店が八店あまり立ち並びました。

盆市は、戦後しばらく開設されていた横越市（一の日に開設、戦後一時中断）が戦後復興で、購買力が商店に吸収されるようになったことから盆市になったといわれています。

盆市は、季節感を与え、趣きがありますが、近年、生活物資が豊富になり、いつでもどこでも買える時代。年々盆市の店も、客足も少なくなっているようでさびしい気がします。

威勢のよい樽太鼓と笛に合わせ、浴衣姿で踊る盆踊りはなかなか風情があります。

このところ各地でお盆や秋祭りに盆踊りが盛んになってきました。お盆の十四・十五日には横越神社で、十八日には農協会館前で盆踊り大会が行われ、大勢の人が踊りに興じていました。

昔は、若者たちにとってはラブハンターの絶好のチャンスであったようです。今日では若者たちに興味がないのか、踊る姿はあまり見られません。踊りを通した地域参加も大切なことと思われます。

総合健康診査の結果について

七月に実施しました総合健康診査は、村民の皆さんのご協力により、初期の目的を達成することができました。

受診された方で、要精検・要医療・要指導の必要な方には、個人通知を差し上げ、その結果指導会も終了しました

個人通知のなかった皆さんは、異常がありませんでしたので、ご承知おきください。

おめでたびころよ

(7月届)

新郎新婦　地区
佐藤「堀」良司　里美）沢海市上
畔上「松沢」正紀　きみ子）新潟市川根谷内

おためでた

(7月届)

新生児　親名　地区
東城　淳治　木津中
佐藤　満　好英　沢海中
阿部　夏希　登駒込
竹内　美幸　正男　横越上
今井　大輔　長栄　木津中
仲村　広志　進　二本木下
竹田紀代子　利彦　二本木上
宇野　勝也　勝幸　木津中
阿部美紗子　修一　横越下

おみやく

(7月届)

故人　年令　地区
角田　七衛　82　沢海下
東城守一郎　86　木津中